

〈高校生の部 優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞〉

笑うように、歌うように。

仁愛女子高等学校 笹野 京愛

桜の花が散り始め、春の暖かい陽がさす頃私は生まれた。笑うように、歌うように声を上げて生まれた。あの日に私は父と母と出会った。運命とも言える出会いだ。出会った日のことは覚えてないけれど。

あれから十五年。今日は四月十四日。十五回目の誕生日だ。でも普通の平日。朝、母に「おめでとう」と言われても私は無視だった。

気がつけば私は母に「わかってるってば」、「知ってるし」と強くあたるようになった。そして明らかに「ありがとう」の数も減った。成績が落ちて母に声をかけられた時も、「わかってる、邪魔しないで」と言い、応援してくれているのに素直に受け止められなかった。でも母の応援がないと勉強も部活も頑張れない。学校で困ったことがあつて思わず涙がこぼれた時、終始態度が悪い私にしっかり向き合ってくれた。朝の支度もご飯も洗濯も母がいない、なんて考えられないし、母がいないと生きられないくせに。

母が私を産んでくれたから今の生活がある。嬉しい、悲しい、辛い、楽しい経験ができるのも母が産んでくれたから。十月十日私を大切に守り、十五年前のあの日私を命懸けで産んでくれた母。だから言いたい、「産んでくれてありがとう」と。でも言えない。照れくさい。

でも今日言わないと後悔する。ちょうど十五年前の今日、私は生まれた。だから伝える。緊張で母の元に行く足が震えた。心臓の音が身体中でこだました。

「ねえママ、産んでくれてありがとう。」

とぼつり。するとにっこりして

「生まれてきてくれてありがとう。」と母。

新しい風が私と母の横を通りすぎた。そんな優しい母の言葉に涙が出てきた。この日を境に私の誕生日は少し変わった。

「生まれてきてくれてありがとう」と言われるとは思ってもしなかった。やっぱり母は優しい。私はあんなに強く母にあたってはいるのに。いつでも応援してくれる母は私にとって憧れだ。

私は今、助産師を目指している。なかなか自分の将来の夢など見つけられなかった私に夢ができた。それはやはり「産んでくれてありがとう」の魔法のおかげだ。私は生命の誕生に携わり、今度は「生まれてきてくれてありがとう」と伝えたい。限らない世界の入り口で生

まれてきてくれた赤ちゃんに。

母が命懸けで私を産んでくれたあの日。感謝を伝え合う誕生日は私にとってとても特別だ。自分が生まれた日のことは思い出したくても決して思い出すことはできない。少し寂しいがやっぱり母と父に出会えた喜びが大きい。

そして今年の誕生日も私を産んでくれた母に感謝を伝えた。少し照れくさかったけどあの日の母の痛みを想像して、

「ねえママ、産んでくれてありがとう」と。そして笑顔で、

「生まれてきてくれてありがとう」と母。二人の時間はゆっくりと流れた。終始私は恥ずかしかったけれど、二人の目は潤んでいた。

桜の花が散り始め、春の暖かい陽がさす頃私は生まれた。笑うように、歌うように声を上げて生まれた。あの日に私は母と父と出会った。運命とも言える出会いをした。出会った日のことは覚えてないけれど。